

社会民主主義 フォーラム青森 通信

NO.29 2023年11月20日
フォーラム青森
〒030-0802
青森市本町3丁目3番11号
青森県平和労組会議気付
forum-ao2021@outlook.jp
080-5413-2848 (事務所専用 TEL)

第2回政治学習会を開催

フォーラム青森は、11月19日ハートピアローフクで約30名が参加して第2回政治学習会を開催しました。

冒頭、主催者の藤田代表から学習会主催の趣旨、会員・党員拡大に向けた取り組み強化、年明けともささやかれている解散総選挙に全力で取り組む決意が、また、立憲民主党青森県連合からは升田代表代行が、フォーラム青森のこうした取り組みは青森県連も見習う

べき、意義ある学習会となることを祈念すると結びました。

その後、立憲民主党代表代行の逢坂誠二衆議院議員を講師に「現情勢における立憲民主党の立ち位置」と題して、およそ1時間にわたって「政治は政策の相違点だけに特化すべきでなく、多数派を確保して国民生活向上を信条にすべきだ」とエネルギーギッシユな講演をいただきました。そして、講演後は事前受付の5項目の質問と会場からの質問に答えました。質問内容は党運営に関するもの、選挙に関する課題、国会運勢や原発問題などでしたが、精査のうえ改めて答えたいとした項目もあり深掘の意見交換となりました。

最後に逢坂衆議院議員が「また青森に来ます」と述べて上京の途に着きました。
(原子秀夫)



講演する逢坂誠二衆議院議員

経過報告

- 9月30日 第一回幹事会
- 10月11日 フォーラム青森支部・小笠原大佑県議会報告会(40名)
- 10月14日 フォーラム青森・議員団学習交流会(小笠原県議・杉浦むつ市議オブ参加)
- 10月16日 田名部匡代国政報告会
ローフク会館
- 10月22日 立憲民主党県連幹事会
アップルパレス
- 11月3日 軍拡・改憲阻止集会
青森駅前公園
- 11月4日 岡田幹事長・田名部匡代街頭演説会 イトーヨーカドー前
- 11月5日 フォーラム八戸支部幹事会
- 11月6日 イスラエル戦争反対緊急集会
県庁前
(12・8繰り返すまい戦争への道実行委員会)
- 11月16日 第2回フォーラム青森幹事会
- 11月16日 第2回四者協議(立憲・自治
労県本部・平和労組・フォーラム青森)

第4回総会が12月2日

第2回幹事会において、次期第4回フォーラム青森総会は来年3月2日(土)に開催することとしました。

12月の解散はなくなつたと思われませんが、1月の解散総選挙もうわさされています。

状況によっては変更になるかもしれないませんが、第3回総会が選挙などの関係で7月にずれ込んだこともあり、せひとも3月あたりで開催したいものです。

また、各議会前に議員団として統一的な対応をしたい、との提起

がありました。

検討の結果、具体的には①青森県立中央病院と青森市民病院の統合について、地域医療をどう支えていくか：②農(漁)業政策について、をテーマとして開催していくこととしました。

そして、立憲の綱領を実質的に作成した(衆代表と)逢坂さんに、財政的にみて地域支部をどう考えているか等を聞いてみることにしました。

※逢坂さんは「確かに党員へのケアは淡泊になっているかも。1年毎の会員登録も事務的になつていっているので検討していく」ので、「また、来ます」と述べました。(文責・佐藤康弘)

天井なき監獄 365Km²に 220万人



県庁前に 36 名結集 社民フォーラムから参加の宮崎氏

パレスチナ自治区ガザでの戦闘 即時中止を求める決議

1947 年 11 月に国連がパレスチナ分割決議を採択し、翌年の 1948 年イスラエルが独立を宣言して以来、第三次もの中東戦争が発生し、パレスチナ問題が今も続いている。こうした中、10 月 7 日、イスラム組織のハマスは突然、数千発のロケット弾をイスラエルに発射し、イスラエル国内に戦闘員を侵入させて人質に取った。

これに対してイスラエル軍は、パレスチナ自治区ガザへの空爆を開始し、地上軍の侵攻を含む大規模攻撃を行っている。

ガザ地区北部の避難場所とされた病院や難民キャンプなども攻撃され、双方の死者は、一万人を超えたと報道されている。

ガザ地区は、水道や電気が止まり、食糧も欠乏して市民生活は窮地に陥っているが、人道支援物資の搬入もままならない状態が続いている。

ハマスの行為は許されないが、「天井なき監獄」と呼ばれるガザ地区に、将来の夢を抱くこともできず暮らすパレスチナ人の絶望は計り知れない。一方で、差別と偏見の中で世界を放浪し、ナチスによるホロコーストをも経験したユダヤ人の歴史も、また悲劇であった。

こうした双方が、壊滅的な戦闘に突入してはならない。報復を繰り返すことなく、直ちに戦闘を

停止し、恒常的な平和への対話を始めることを強く要請する。

国連安全保障理事会は、大国の思惑に左右されて、有効な対策を採れない状況にあるが、戦闘で失われる命を軽く見てはならない。

国連の中東平和担当特使は、イスラエル軍とハマスの戦闘拡大のリスクは、「非常に現実的で、極めて危険」と警告し、現状が「深く危険な深淵の瀬戸際」と表現している。

日本政府は、どちらか一方の立場を重視するのではなく、人道の危機として対処していくことを要請する。

ウクライナ戦争が続く中で、パレスチナで新たな戦争が引き起こされた。国際社会は、それぞれの政治的思惑を排除し、「命の尊厳」という視点から国際秩序の再構築にとりくまなくてはならない。

私たちは、イスラエル軍の空爆と地上侵攻の停止、ハマスの戦闘停止と人質解放、及び、双方が和平交渉のテーブルに着くことを要請する。そして、日本政府をはじめ国際社会が、それらを可能にする状況を即時につくり上げることを要請する。

2023 年 11 月 6 日

ガザでの戦闘即時停止を求める
緊急集会参加者一同

11 月 6 日、社民党青森県連合・青森県平和労組会議・フォーラム青森が主催して、上記の緊急集会を開催し、決議案を採択しました。

連日報道で目にする「天井なき監獄」ガザ地区の悲惨な惨状。私たち（私）に何ができるのか、答えは見つけれられていません。

ガザ地区の面積は 365 km²、そこに約 220 万人が暮らしています。青森県で考えてみました。八戸市の面積は 305 km²、人口は約 22 万人です。同じ規模の土地に、10 倍の人口。そこに毎日ミサイルとか銃撃とかの攻撃にさらされる…。もう他人事には考えられません。

ちなみに、青森市（825 km²、約 26 万人）、弘前市（524 km²、約 16 万人）、十和田市（726 km²、約 5.8 万人）、むつ市（864 km²、約 5 万人）、五所川原市（404 km²、約 4.9 万人）、三沢市（120 km²、約 3.8 万人）、黒石市（217 km²、約 3 万人）、つがる市（253 km²、約 2.9 万人）、平川市（346 km²、約 3 万人）です。【市部のみ】

（佐藤康弘）



「大型弾薬庫に反対する市民の会」の申し入れに、むつ市より回答

去る 8 月 25 日、「大型弾薬庫に反対する市民の会」（社民フォーラムしもきた、年金者組合むつ、下北地域9条の会、他）がむつ市へ提出した申し入れ書に 11 月 14 日、面談の上、文書回答がありました。

住民説明会については、「そうした要望があればむつ市として防衛省に求める」と前向きな回答がありましたが、それ以外では防衛業務は国の専管事項として何一つ納得できるものではありませんでした。

【質問①】 当市の将来像を大きく左右する大型弾薬庫の新設について、貴職はどのように考えるのか。
【回答①】 国民の命と平和な暮らし、そして、わが国の領土・領海・領空を守るため、運用基盤の強化を図るものであり、弾薬を安全に保管するため、また、部隊運用を継続的に実施するために必要な整備と理解しております。
【質問②】 市として地域住民に対して直接説明する予定、あるいは防衛省へ説明を求める予定はないのか。
【回答②】 国防に関わる整備についての説明となりますので、地域に居住している方が不安に思い、説明会の実施等を求められるのであれば、市としては防衛省に対して説明会の実施を要望するとともに、会場の手配や広報等に協力していきたいと考えております。
【質問③】 大型弾薬庫新設による市民生活への影響をどのように考えているのか。
【回答③】 火薬庫の設置・運用にあたっては火薬類取締法等の関係法令に基づいた保安距離が基地内で十分確保されているとともに、今まで長年にわたり運用されてきた既存の火薬庫についても弾薬等の適切な管理が行われてきたことから、市民生活への影響は特段生じないものと考えております。
【質問④】 現時点で工事の進捗状況はどのように捉えているのか。
【回答④】 具体的な進捗状況は把握しておりませんが、東北防衛局のホームページに本件に関わる工事等の公告や入札結果も掲載されておりますので、予定どおり工事等は進んでいるものと認識しております。
【質問⑤】 大型弾薬庫が完成した時点で弾道ミサイルなどの収納あるいは発射装置までの搬出経路などについてどのような形態でおこなわれるのか把握されているのか。
【回答⑤】 把握しておりません。なお、去る 2 月 17 日の防衛大臣記者会見において、当時の浜田防衛大臣は「個々の火薬庫に保管する弾薬の種類については、その詳細を示すことにより、自衛隊の能力が明らかになるおそれがあるため、具体的にお示しすることは困難であることを御理解いただきたい」と発言されております。
【質問⑥】 大湊地域という特性上、将来的に弾道ミサイル搭載可能のイージス艦などの配備を懸念する報道なども目にするが、こうした計画などについて聞き及んでいるが、今回の建設で補給所区域及び周辺地域に設定されている区域に変更が生じると考えているのか。
【回答⑥】 現在、整備中の 2 棟も、弾薬整備補給所内に建設されるため、対象施設周辺地域の区域に変更はないと認識しております。
【質問⑦】 建設予定地が現在の弾薬整備補給所とされていると聞き及んでいるが、今回の建設で補給所区域及び周辺地域に変更が生じると考えているのか。
【回答⑦】 現在、整備中の 2 棟も、弾薬整備補給所内に建設されるため、対象施設周辺地域の区域に変更はないと認識しております。
【質問⑧】 周辺民家などの立ち退き要請や自主的な立ち退き事象が生じているような事実はあるのかどうか。
【回答⑧】 そのような事実は把握しておりません。
【質問⑨】 本事業によりむつ市の様々な行政事業計画への変更などは発生するのか。また、地域の環境や動植物の生態系への影響への懸念などについてはどう考えているのか。
【回答⑨】 当市の様々な行政事業計画への変更は発生しないものと考えております。これまでの火薬庫整備において、環境等への影響はなかったものと認識しており、本事業においても関係法令等に基づき、適切に整備されるものと考えております。

（質問文は簡潔に省略しています）

※面談には市民の会から目時共同代表、村上事務局長他計 8 名が列席。市当局は角本企画政策部長以 3 名が対応しました。その対応でむつ市側は表面的には丁寧な受け答えでしたが、すべて防衛業務は国の専管事項であり立ち入ることができないとの立場に終始しました。市当局としても弾薬庫にどのような機材が、どのような形で、どのような経路で搬入・搬出が行われるのか、あるいはどの時点で搬入されるのかも一切把握できないとのことでした。このようなことで果たして市民の『命と暮らしを守る』ことができるのか大いに疑問です。

近日中に、あらためて本回答を分析し、こうした点を追求していくことを会談終了後、参加者で確認しました。

（社民フォーラムしもきた VOL.33 2023/11/15）より



回答を受け取る目時代表